小学校英語教育推進のための保護者に対する支援
～ 親子英会話セミナーの実践を通して ～

A Support Program for parents to promote English Language Education in Elementary Schools
— The Report on the English Seminar for Parents-and-children —

(2007年３月31日受理)

佐藤　大介　　松畑　熙一
Daisuke Satoh　Kiichi Matsuhata

Key words：小学校英語教育，保護者，家庭教育力，コミュニケーション，支援

要　　旨

小学校英語教育を推進するためにこれまで行われてきた支援は，教師の指導力や教材開発など学校内の側面に限定され，小学校英語の必修化も提言された中で，学校内だけではなく，地域や保護者に対する支援も今後ニーズが増してくると考えられる。また，英語学習を通して家庭内でのコミュニケーションを図り，家庭教育力を促進させるのに有効である。

本論では保護者を対象とした支援を実践するため，「親子英会話セミナー」を開催した。その結果，参加者には概ね楽しんでもらえた。しかしながら，外国人とふれあう機会が少なかったり，扱った歌やダンスが難しかったりした点で，今後は時間配分に対する配慮や習熟度に大きな差異が出ないように各小学校教員との連携も図りながら限定的な地域での開催などを検討し，継続的な開催が必要であることが分かった。

また，保護者の小学校英語教育に対しての意識では，早期から小学校英語教育を開始すべきであり，「コミュニケーションに対する関心・意欲を育て国際人としての感覚を身に付けること」を目的と考えていることから，あいさつや日常会話，異文化などを知り，国際交流の機会を増やすことが英語活動では必要であると感じている。

1　は　じ　め　に

小学校では総合的な学習の時間に英語活動が広く実践され，これまでよりもさらに小学校で英語教育を推進するための環境整備が必須となっている。これまでは早期英語教育に関する研究や海外での児童英語指導を参考に小学校の教師自身が試行錯誤しながら実践し，近年では指導者養成の一環として教員の研修が盛んに行われてきている。しかし，小学校英語教育を今後さらに推進していくためには，学校内（教師と児童）だけではなく地域の保護者への英語教育に対する理解の促進及び関心の増幅を働きかけることが重要となる。

また，家庭内における教育力やコミュニケーション不足が問題視されている中で，現在の小学校英語活動はコミュニケーションに主眼を置き取り組んでいることからも，英語を学ぶことを通して家庭教育力や家庭内でのコミュニケーションを促進するのに，重要な役割を果たすのである。

そのため，保護者と子どもが共に参加できるセミナーを開催し，保護者同士または親子で一緒に楽しみながら，保護者自身が小学校英語だけではなく英語教育や英語に対する理解と関心をより深めてもらうことが必要であると考える。

本論では，地域の小学校に在籍する小学生を対象に「親子英会話セミナー」を開催した実践報告を中心に，保護者へのどのような支援が今後必要となるかを検討していく。

表１　各グループの人数

	Group 1	Group 2	Group 3	Total
１年生	5	4	2	11
２年生	3	2	3	8
３年生	1	2	4	7
４年生	1	2	1	4
５年生	0	0	1	1
６年生	0	0	0	0
その他	5	2	5	12
児童合計	15	12	16	43
保護者	14	9	14	37
合　計	29	21	30	80

2　保護者支援の意義

総合的な学習の時間が実施され学習指導要領に「国際理解に関する学習の一環としての外国語会話等」と明示され，さらに平成18年３月に小学校英語の必修化の提言もなされた。しかし，その一方で教師の英語力や英語指導力の問題や保護者の英語導入に対する不安は肥大化している。そこで，これまで全国的に大学や教育委員会，研究会などが主体となって教師対象の研修講座や公開授業などが行われてきた。平成17年度より文部科学省が実施している「小学校英語活動地域サポート事業」では，指導方法の改善・向上，指導者の能力向上を図る取り組みを行ってきている。しかし，それは実践的な指導法や教材を知り，現職教師に対する限定的な支援が一方的に行われているだけではないだろうか。言語政策の一環として英語教育を広く展開するためには，さらに地域住民や保護者が抱える不安を総合的に解決することが鍵となる。

それにも関わらず，これまでは英語教育における地域環境ではなく，単に学校環境の整備に取り組んできたに過ぎない。ただし，その学校環境においても未だ十分とはいえず，さらなる支援が必要である。

そこで，まずは小学校に最も関わりの深い児童の保護者に対する支援を実施することで，保護者が現在の状況をどのように認識し，小学校英語教育をどう捉えているのかを検討し，今後の支援に反映させることは大きな意義があると考えられる。

表２　各セミナーのテーマと対象

	テーマ	対象
Seminar A	英会話	親子
Seminar B1	コミュニケーション	保護者
Seminar B2	歌・ダンス	子ども
Seminar C	発音・聞き取り	親子
Seminar D	クリスマス	全体

3　実践概要

3.1　実施概要

本セミナーは名称を「Let's Enjoy English!!～親子で楽しくコミュニケーション～」として，平成18年12月17日（日）13:00～16:00（３時間）に開催した。主催は，児童英語研究学会（ASELAC）[*1]ならびに中国短期大学英語コミュニケーション学科である。会場は中国学園大学・中国短期大学を使用し，岡山県教育委員会，岡山市教育委員会の後援を取り，岡山市内の一部の小学校児童・保護者に対するチラシの配布をはじめ，ホームページや新聞等を用いて参加者を募った。参加費は無料とし，参加資格としては，少しでも英語が楽しめる小学生（同伴時の未就学児も参加可能），とその保護者（または大人）とした。今回のセミナーでは，保護者への支援を主たる目的としているため，親子同伴での参加を原則とした。その結果，30組の申し込みがあり，当日は28組の親子（保護者37名，子ども43名の計80名）が参加した。

また，開催方法として，本セミナーは4つの分科セミナー（各25分）と１つの全体セミナー（40分）を企画した。受講方法は全員が一斉に受講するのではなく，参加者を親子ペアで３つのグループに分け，別々にそれぞれの分科セミナーを，その後，全員で全体セミナーを受講してもらった。それぞれのグループの児童の学年と人数は表１の通りである。なお，「その他」の項目には，未就学児や同伴した子どもが含まれている。

グループ分けには，英語がコミュニケーションツールであるという観点から，学年の枠を越えての人間関係構築も重要であるという視点から，各グループの学年が極力分散するよう配慮した。しかし，親子ペアでのグループ編成のため，保護者一人に対して児童複数という場合もあり，学年分散に若干のばらつきが出てしまったが，

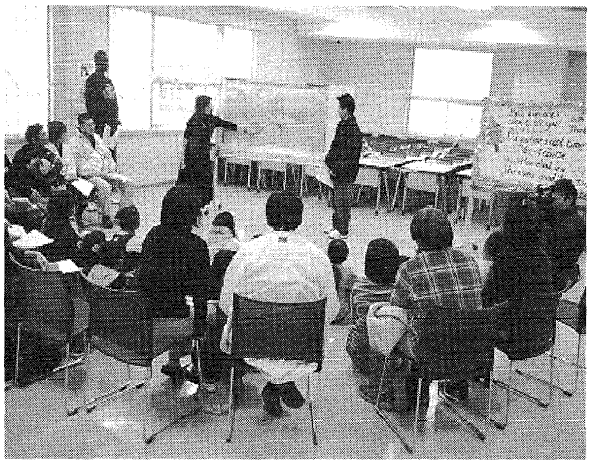

写真１　Seminar Aの様子　（赤松康子先生）

写真２　Seminar B1の様子　（藤井佐代子先生）

想定内のことである。

またセミナーの対象として，３つある分科セミナーのうち２つは親子で一緒に受講してもらうが，１つは親子が別々に受講するよう設定した。さらにすべての分科セミナーの受講後，大講堂において全体セミナーを実施した。

各セミナーの講師は，岡山県内・岡山市内の小学校で英語活動の指導実践にも取り組んでいる先生５名（ALTを１名含む）である。また，７名の高校留学生をゲスト外国人として招待し，セミナーに参加者と共に活動してもらうことで外国人とのふれあいの機会を設けた。各セミナーのテーマと対象は表２の通りである。

各セミナーの内容については，保護者に現在の実際の取り組みを知ってもらうために，小学校英語活動において広く実践されているものの中から選び出した。また，全体セミナーでは，分科セミナーで学習したことが活かせるよう内容を検討した。そのため，英語表現や各セミナーで取り扱う活動（歌やダンスを含む）は，共通して扱うよう配慮した。次に挙げるのは，今回扱った英語活動である。

〈英語活動（歌，ダンス）〉

- Five little monkeys
- Hello Song
- I have a Joy
- I like coffee, I like tea.
- London Bridge
- See you later, Alligator
- Seven steps
- Ten fat sausages
- The eency weency spider
- The finger family
- The Hokey-Pokey

〈クリスマスソング〉

- Jingle Bells
- Rudolph the Red-nosed Reindeer
- Silent Night
- We Wish You A Merry Christmas
- White Christmas

セミナーが終了後には，今回のセミナー実施が12月であったということもあり，セミナーに参加した人すべてに，クリスマスプレゼントを用意し手渡した。

３．２　目的と目指す効果

本セミナー全体では，英語の歌やゲーム，外国人との会話，「クリスマス」をテーマにした馴染みある文化を通して親子でふれあいながら英語の楽しさを共有し，小学校英語教育への理解を促進することを目的とした。

また，保護者自身が英語を使ってコミュニケーションをする楽しさを体験することにより，家庭で子どもと英語を楽しもうとする気持ちを高め，日本語によるコミュニケーション能力も踏まえながら，英語を介した親子のコミュニケーションの方法を理解し，家庭の教育力を高めることを目指した。

写真３　Seminar B2の様子　（木村明美先生）

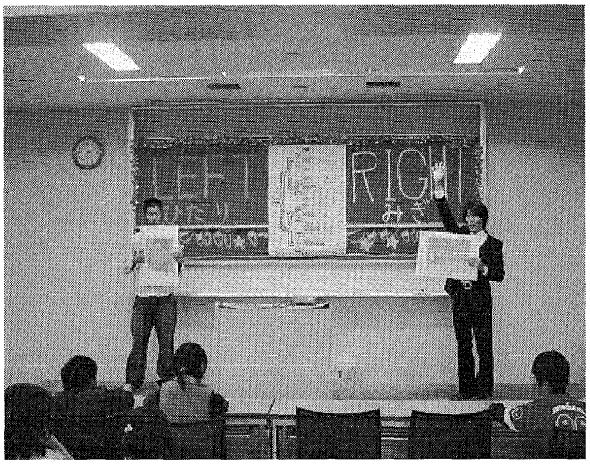

写真４　Seminar Cの様子　（井上洋介先生）

３．３　各セミナー内容

３．３．１　Seminar A （テーマ：英会話，対象：親子）

Seminar Aでは，英会話をテーマとして，「留学生と話すことで英語は伝達しあうためのツールであるということを実感する」ことを目的とし，高校留学生にも活動に参加してもらった。

まずウォームアップとして，留学生との挨拶（“Hello. How are you? Good to see you!”）を笑顔で握手をし，留学生に慣れてもらった。その後，世界地図を用いて，留学生に自己紹介をしてもらった。

次に，下の表現をフレーズとして練習した。

Parent:(Child’s name), did you have a good time?
Child:Yes, I did. I had fun (or good time).
How about you, mom (or mother)?
Parent:Of course. I enjoyed myself.

ここで，外国人留学生との実践的な会話をしてもらうために，グループに分かれて，好きな動物，スポーツ，趣味，食べ物を絵に書いて英語で発表してもらった。この際，単に外国人への一方的な発話とならないよう，グループ全体に向けて発表するよう注意した。

最後に，先に練習した“Did you have a good time?”の表現をグループ内の外国人だけではなく保護者からも言ってもらい，子どもたちはそれに答えてセミナーを終了した。

３．３．２　Seminar B1 （テーマ：コミュニケーション，対象：保護者）

Seminar B1では，小学校で実際に実践されている英語活動を知ってもらうことができる内容とした。そのため，受講対象は保護者のみとし，その受講時，子どもにはSeminar B2を受講してもらった。

このような点から，保護者に向けたこのセミナーの目的は，「保護者自身が英語を使ってコミュニケーションをする楽しさを体験することにより，家庭で子どもと英語を楽しもうとする気持ちを高める」ことと「日本語によるコミュニケーション能力も踏まえながら，英語を介した親子のコミュニケーションの方法を理解し，家庭の教育力を高める」ことの２点とした。

セミナーではまず，保護者同士の緊張をほぐすため，歌を全員で歌った。その後，留学生の自己紹介と“May I have your name?”“Where do you live?”や“What do you do?”などの簡単な会話をし，聞くことに慣れてもらった。

続いて，外国の家庭では，子どもにどういうマナーを教えるようにしているかに注意をしてもらい，留学生に話してもらった。その中では，“Thank you.”“Please.”など言葉で伝えることの重要性，それが日本語でも大切であること，子どもに対しての話しかけやほめことば，さらにはhugによる心の安定など，日本の家庭では軽視されがちな点にも関心を向けてもらった。

その後，自宅でもできる子どもとの英会話として，基本的な挨拶や英語の歌などを練習した。

最後に小学校英語活動について，カタカナの不使用，音声中心，コミュニケーションに対する態度の育成などを説明し，小学校英語活動に対する理解を深めてもらった。

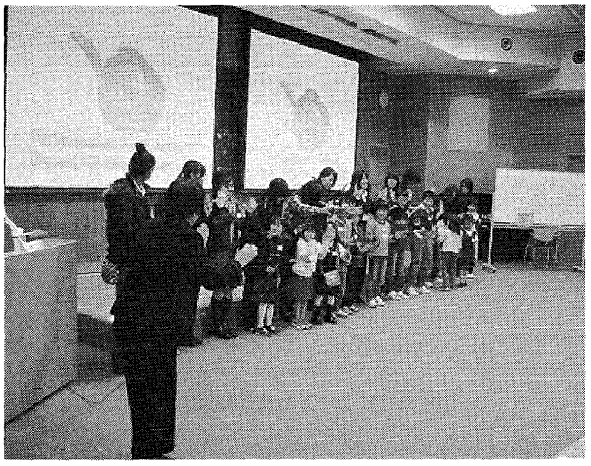

写真５　Seminar D の様子　（名合智子先生）

３．３．３　Seminar B2 （テーマ：歌・ダンス，対象：子ども）

Seminar B2では，子どものみでの参加となるため，その目的を「英語の歌やゲームに親しみ，英語にふれることの楽しさを体験する」こととした。そのため内容は，体全体を使って踊りながら歌ったり，指人形をはめて音楽に合わせて歌ったりして，英語が楽しめるように配慮した。また，参加した子どもの年齢層に合わせながら，参加者に応じた音楽などを用いた。

３．３．４　Seminar C （テーマ：発音・聞き取り，対象：親子）

Seminar Cでは，音声中心といわれる小学校英語活動の点から，テーマを「発音・聞き取り」とし，目的を「英語の発音に慣れ，英語を口にすることの楽しさを知る」ことと，「英単語の聞き取りを通して，英語を理解する楽しさを知る」こととした。

セミナーでは，留学生によるミニマルペアの聞き取りゲームを行った。扱う語彙としては，小学校英語活動でも取り上げられる語彙を用い，それらについては，文字ではなくピクチャーカードで全体に示した。

ゲームではまず講師より発音のヒントが与えられ，それを元に留学生が発音し，参加者は聞き取り，どちらが正しいかを当てるというものである。その後，講師より発音の違いについての説明があり，参加者全員で発音の練習をした。

最後には講師から，発音については日々のトレーニングが必要であり，言語は話しことばが基本なので，できるだけ自宅でも積極的に英語を口にして練習するよう説明があった。

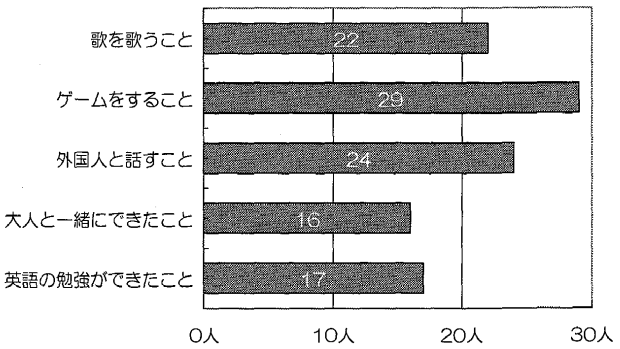

図１　楽しかったセミナー内容

３．３．５　Seminar D （テーマ：クリスマス，対象：全体）

Seminar Dは，小学校英語活動の紹介に留まらず，それらを実際に保護者自身も子どもたちと一緒にやってみることで，「家庭でも簡単に取り組めることがあることを認識してもらう」ことが主な目的である。

そのため，前半部では，中国短期大学　英語コミュニケーション学科　児童英語教育コース専攻の学生にも協力してもらい，学生やDVDによる実演を見ながら，小学校の英語活動で行われている簡単なダンスや歌を参加者全員で挑戦した。また，後半部では，日本でも馴染みのあるクリスマスソングを現職のALT（James Dwyer先生）がギター演奏と共に披露し，参加者全員で歌った。

このSeminar Dで扱われた歌の中には，分科セミナーでも歌った歌を含めるよう配慮した。

４　実践結果と考察

本セミナーについてアンケート調査を参加者全員に実施した。アンケートについては，子ども用アンケートと保護者用アンケートの2種類があり，親子それぞれのアンケートに回答してもらった。そのうち，有効回答数は子ども38名，保護者31名であった。

４．１　子ども用アンケートについて

４．１．１　参加した子どもの英語学習経験について

今回のセミナーに参加した子どもたちがこれまでに英語の学習経験があるかどうかを尋ねた。「はい」と答え

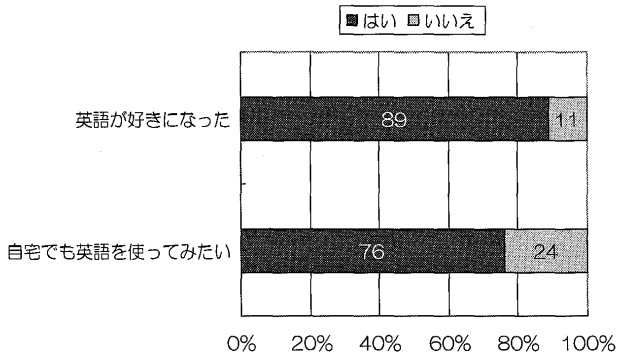

図２　英語に対する意識について

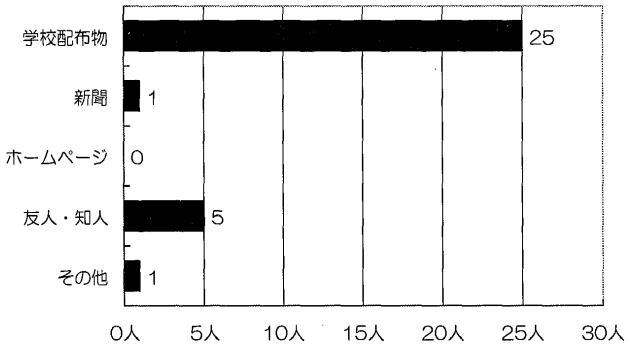

図３　セミナー開催の情報元

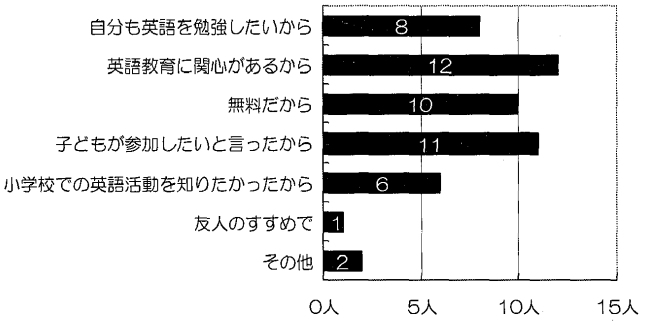

図４　参加しようと思ったきっかけ

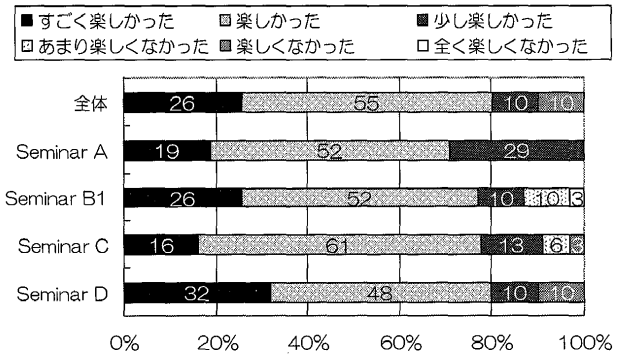

図５　保護者の各セミナーの楽しさの度合い

たのは31名，「いいえ」と答えたのは，７名だった。このことは，すべての参加者が英語について触れたことがあるわけではないことを示している。そのため，今回のようなセミナーでは，英語嫌いにさせないことや英語に対する抵抗を持たせないよう留意しながら実施していくことが必要である。

4. 1. 2　今回のセミナーについて

セミナー全体を通して，楽しかったかどうかを尋ねた。その結果，「はい」と答えたのは37名，「いいえ」と答えたのは，１名だった。ほとんどの子どもが楽しいと感じてくれたようである。

また，セミナーのうち，「歌を歌うこと」，「ゲームをすること」，「外国人を話すこと」，「大人と一緒にできたこと」，「英語の勉強ができたこと」の５つの項目で，楽しかったものに複数回答可で回答してもらった。その結果が図１である。

図１の結果から，歌やゲーム，会話という面に対しては半数以上が楽しいと感じている。また，「大人と一緒にできたこと」についても楽しいと感じている子どもがいることも分かった。このことは，子どもだけで学習するのではなく，保護者と一緒に取り組むことで学習に対する態度を促進していることが分かる。このよう点から英語に限らず，家庭での教育力についても支援していくことも重要である。

また，今回のセミナーについて感想を自由記述で答えてもらった。肯定的な感想としては，「みんなで勉強ができてよかった」，「今まで知らなかった英語の歌がたくさん知れて良かった」，「歌やゲーム，指人形で遊べたので楽しかった」，「外国人とあえて楽しかった」，「長い歌難しい勉強はよくわからなかったけど，外国人の先生の話しでよく分かった」，「英語に興味ができた。もっと勉強したくなった」，「来年も来たい・教えてもらいたい」など，英語学習に対して興味・関心が増していることがわかる。また，「英語をお母さんや外国人と話したので楽しかった」，「ゲームを通して友達と仲良くなった」など，コミュニケーション活動を通して，人間関係を構築できたと感じる子どももいた。このような意識は学校の授業内ではなく，学外で今回のようなセミナーに参加することで得られるものではないだろうか。そのため，このようなセミナーを継続して開催することが求められている。否定的な意見としては，「そんなに楽しくない」

とあった。具体的にどのような点が楽しくなかったのかについては記述がなかったが，好奇心や学年による差異が原因ではないかと考えられる。

4．1．3　英語に対する意識について

今回のセミナーを通して，英語が好きになったか，また，自宅でも英語を使ってみたいと感じたかどうかについて調査した。その結果が，図２である。

この結果から，このセミナーを通して，「英語が好きになった」と感じた子どもは89%,「自宅でも英語を使ってみたい」と感じた子どもは76%と，かなり多くの子どもが英語に対して肯定的な意識を持ち，積極的な態度へと導くことができたと言える。

4．2　保護者用アンケートについて

4．2．1　参加経緯について

このセミナーに参加しようと思ったきっかけを複数回答可で調査した。まず，セミナー開催の情報元について調査した。その結果が，図３の通りである。

図３が示すように，ほとんどが学校配布物であることが分かる。「その他」については，詳細な記述がなかった。また，参加しようと思ったきっかけについて調査した。その結果が，図４の通りである。

図４が示すとおり，「英語を勉強したい」「英語教育に関心がある」「小学校での英語活動を知りたかったから」という保護者の内的要因が，「無料だから」や「子どもが参加したいと言ったから」という外的要因を上回っていた。この点からも，小学校英語教育については，保護者の関心が高いことが読み取れる。また，「その他」の意見としては，「たのしそうだから」と「知らない人とも自らすすんで会話して欲しいと思うから。」というものであった。

4．2．2　今回のセミナーについて

４つの各セミナーおよび今回のセミナー全体について，楽しんでもらえたかどうかを６段階の評価（６：すごく楽しかった～１：全く楽しくなかった）と自由記述式の感想を尋ねた。６段階評価の結果が図５の通りである。

その結果，全体としては楽しいと感じている人が多いようであった。また，セミナー全体を通しては，楽しく感じている参加者の平均は，4.9であった。感想としては，「英語を通して様々なことを勉強できて楽しかった」,「緊張したが，とても楽しく有意義な時間だった」，「子どもが喜んでいた」，「時間が短く感じた」，「また企画してほしい」，「日頃こういった機会がないので，充実した時間となった」，「英語に触れる機会ができた」「外国人が良かった」など，今回のようなセミナーが保護者のニーズを概ね満たせていた。継続的にこのようなセミナーを開催することが，今後も求められる。

しかし，「全体的に高度で，子供にはついていけない」，「会話より単語ですすめて欲しい」など，セミナーで取り扱った内容が難しいと感じる参加者もいた。

今回は保護者の内的要因による参加者が多かったことは先に述べたが，これは英語に対して肯定的に捉えている方が多いということを意味している。逆に，外的要因による参加者が多い場合は，英語に対して否定的な方もおり，また英語に対する苦手意識を持った方もいるであろう。そういった参加者にも自ら楽しんでもらえるよう，より一般化するためには，セミナー内容の難易度については，しっかりと検討する必要があり，開催時間が許せば，習熟度別といったプログラムの策定も考えられる。ではここから，各セミナーについての具体的な感想を見ていく。

4．2．2．1　Seminar Aについて

Seminar Aを楽しいと感じている参加者の平均は，4.9であった。感想としては，「子どもと簡単な英語で会話をしたことが新鮮だった」，「外国人と直接話しができた」，「少人数で椅子がなかったので親近感が持てた」など，単なる英語だけではなく，英語をコミュニケーションの道具として用いているということを参加者自身が認識・実感しているという感想が多く得られた。

その一方で，「外国人のテンションの高さで距離感を感じていた」，「恥ずかしくて話せなかった」など，参加者の心理的な側面に対する支援や働きかけが必要であることが分かった。また，「外国人の母国についての話をもっと聞きたかった」という要望もあり，外国人と触れる機会が少ないからこそ，このような機会にもっとじっくりと話せる場を提供することも重要な点である。

4．2．2．2　Seminar B1について

Seminar B1を楽しいと感じている参加者の平均は,4.8であった。感想としては,「小学校英語教育についてもう少し聞きたかった」,「文化の違いが分かった」「親も勉強になり,良かった」「タイの方との会話は緊張したが,良い経験となった」など,小学校英語教育について前向きな感想が多く,また,保護者も外国語や異文化に対する興味・関心が強いことが分かった。

しかし,高校留学生がタイ人だったということもあり,「聞き取りにくかった」,「聞き取れなかった」など,英語が世界共通語といわれる中で,あらゆる母語話者の英語を聞き取る力を育成していくことも肝要である。

また,Seminar B1のように,親子での参加ではなく,別々に参加する形態が1つぐらいならあってもよいかという質問に対しては,有効回答者全員が「よい」と答えた。今回のセミナーでは,Seminar B2で保護者と別れた子どもたちは英語の歌やダンスをしていたが,中には人見知りをして活動にうまく入れなかったり,途中で泣き出してしまう子どももいた。しかしながら,それでも全員が保護者だけでのセミナーの必要性を感じていることは今後このような会を催す際は留意すべき事項である。

4．2．2．3　Seminar Cについて

Seminar Cを楽しいと感じている参加者の平均は,4.8であった。感想としては,「同じような発音があって勉強になった」「子どもが英語に興味を持ってくれたきっかけになった」「ゲームを通して発音が身に付くので,もっと教えてもらいたい」「子どもが一生懸命聞いていたので良かった」など,ゲームによる発音指導を楽しみ,それによって子どもたちが英語に対する関心を高めていることが保護者の視線から読み取れたことが分かる。このような実際の活動に子ども自身が興味・関心をより示していることに保護者が喜びを感じることからも,親子で参加するセミナーは有意義であると考える。

Seminar Cについては,セミナー内容に対してはほとんど否定的な意見がなかったものの,「発音は難しいと思った」,「聞き取りが難しいことがよく分かった」など,英語や言語学習について難しいと感じており,今回のセミナーを通して,英語や英語学習に対する否定的な考えを示さないようにしてもらいたい。

4．2．2．4　Seminar Dについて

Seminar Dを楽しいと感じている参加者の平均は,4.9であった。感想としては,「手遊び歌やクリスマスの歌を子どもと一緒に歌えて楽しかった」,「知っている歌があり,一緒に楽しめた」,「DVDが良かった」,「歌を歌うことで,楽しく発音や意味が自然に身につくと思った」,「歌を通して,英語を話すと覚えやすくなると思った」など,外国語を,歌を通して学習することの楽しさを知ってもらい,そして,子どもだけではなく保護者も一緒に楽しんでもらえたことがわかる。特に歌を通しての言語習得促進を保護者自身に感じ取ってもらえたことは,今後小学校英語活動を進める上で,大きな意味があるといえる。

しかし,一方では,「歌が難しすぎる」などの意見もあった。知っている歌を扱うよう配慮したが,なかなか歌う事ができない参加者が多くいた。そのため,先に述べたように歌うことの学習効果を保護者が理解している点からも,もう少し曲数を限定し,じっくりと練習し全員で歌うことで,より一層保護者の理解が図れるのではないだろうか。

4．2．3　今後のセミナーについて

今後このようなセミナーを開催する際,参加してみたいかどうかについては,全員が「はい」と答えた。では,具体的にどのようなセミナーを求めているのか,自由記述で回答してもらった。

開催時期としては,今回のセミナーが学期内の日曜日に開催したこともあり,「春休み,夏休みの開催」を望む声が多かった。また,それと同時に,長期休暇中であれば「子どもだけの参加も可能にするべき」という意見もあった。この中には,「親に頼らなくても,子どもは伸びる」という意見もあった。また,外国のお祭り・行事（例：クリスマス,ハロウィン）やパーティー等と関連させながら,定期的な開催を希望する意見も多くあった。

内容としては,「親子で一緒に体を動かせるもの」,「外国人とふれあったり,会話をしたりする等の時間がもう少し長ければよかった」,「リトミック的な内容を取り入れる」など,今回のセミナー内容における改善点を指摘してもらった。今回実施したセミナーをベースとして,

今後のセミナーの内容を検討することができるのではないかと感じる。

また，「学生を増やすことで，英語に慣れていない子どもを支援してほしい」という意見もあった。今回のようなセミナーでは，英語の学習歴がある子どもばかりではない。このような観点からも，より一般化するためには，支援員として学生に協力を促していくことも重要な要素となると考えられる。この指摘は今後重要な役割を果たすであろう。

4．2．4　英語教育に対する意識について

今回のセミナーに参加して，小学校での英語教育の必要性をこれまで以上に感じたかどうかを６段階で評価してもらった。その結果が，図６である。それが示すように，必要性を感じているのは，96%を越えている。小学校英語教育については，広く研究者を中心として導入の賛否について議論が白熱しているが，それでも今回参加した保護者については，その必要性を感じており，このような結果を踏まえた上で，今一度，慎重に導入については，その賛否を検討していく必要もあるのではないだろうか。

また，「きれいな発音」，「歌やゲーム」，「体を動かす活動」，「文法や単語」，「国際理解」の５つの項目のうち，もっとも必要だと思うものをひとつ選んでもらった。この５つの項目は今回のセミナーで取り扱った項目を書き出したものである。その結果が図７である。

図７が示すように，小学校英語教育においては，中学校や高等学校でも学習できる「文法や単語」ではなく，「きれいな発音」「歌やゲーム」「体を動かす活動」「国際理解」を必要だと多くが感じているようである。これは，今回のセミナーで実際に保護者が身を持って体験し知った成果であろう。

また，今回のセミナーを通じて，時間があれば自宅でも子どもと一緒に英語に触れようと思ったかどうかについて，「はい」か「いいえ」で尋ねた。その結果「はい」と答えたのが30名，「いいえ」と答えたのが１名であった。この結果から，ほとんどの保護者が自宅でも子どもと一緒に英語に取り組む意欲を見せたことが読み取れる。また，この結果は，76%の子どもが「自宅でも英語を使ってみたい」と答えた結果を踏まえると，自宅でも英語を触れる機会を子どもたちに多く提供することができる一助になったのではないかと感じている。

4．2．5　今後の小学校英語教育について

小学校英語教育について今後どう進めるべきか，自由記述で回答してもらった。その結果，英語活動の目的，頻度・開始時期，内容，そして，小学校英語教育全般の４種類の項目に分類することができた。

まず，目的について，ほとんどの保護者が，「子どもが楽しんで英語を学ぶことができること」，「恥ずかしがらずに挨拶や簡単な会話ができること」，「積極的に自分から英語を話したいと思う気持ちを育てること」，「様々な場面に対応できるコミュニケーション力をつけること」といった意見を持っており，これらに共通して言えることは，英語力の向上が中心ではなく，コミュニケーションに対する関心・意欲をまずは育て，国際人としての感覚を身に付けることが重要だと感じている。

次に，頻度・開始時期については，「週１回程度でカリキュラムに入れてほしい」，「小学校低学年から少しずつでも始めていくべき」「幼い時から英語や外国文化に触れることで国際理解ができると思う」という意見が多かった。現在の小学校英語活動は学校によりその頻度や

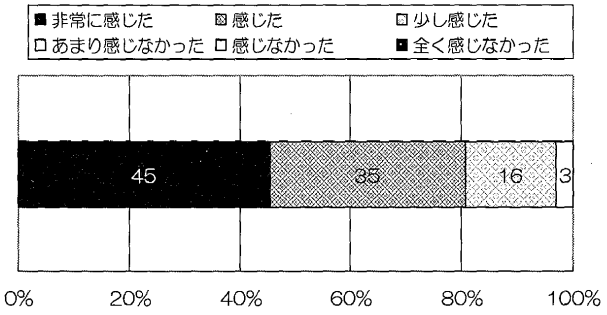

図６　小学校英語教育の必要性

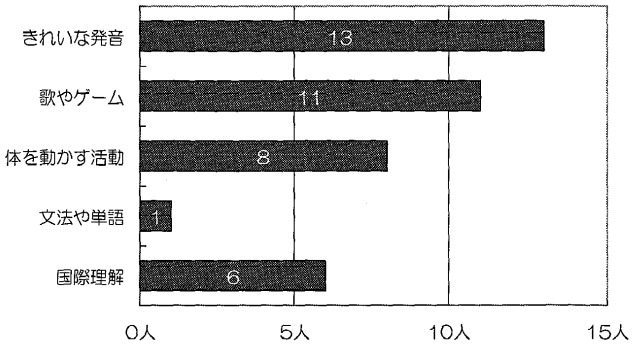

図７　もっとも必要な項目

開始時期は異なっている。また，平成18年３月27日に外国語専門部会の審議において，小学校における英語教育の教育課程上の位置づけとして，小学校での英語教育は中学年（３年生及び４年生）が総合的な学習の時間内に，高学年（５年生及び６年生）が「英語」という新しい領域の内に充てるという提言がなされた。このような状況は，現在小学生を子に持つ保護者のニーズには今回の調査では一致していないことが分かる。より早期から小学校でも英語教育を始めていくことが求められているようである。

内容については，「楽しみながら」，「暗記は必要ない」，「歌やゲームを増やす」などのように英語活動については他の教科とは異なり，子どもたちが勉強して身に付けるのではなく，体験・実践して身に付けることを望んでいる。また，「国際交流」，「ネイティブの先生や外国人に指導してもらいたい・ふれあいの機会を増やしてほしい」のように，外国人との交流の機会を多く持つことが重要だと感じている。具体的な内容としては，「あいさつや家庭内での日常会話」，「文法ではなく，発音やヒアリングの力を」，「『聞く→話す→読む→書く』という順番で」といった意見が多く，SpeakingとListeningに重点を置くべきであるということ，そして子どもたち自身に馴染みのある会話を知ってもらいたいと感じている。そのほかにも，「ことば中心で文化についても学ぶ」や「国語に重点を置いた教育を」といった意見もあり，単なる言語学習に終わることなく，文化的側面やコミュニケーション力にも配慮しながら，英語活動の内容を検討していく必要があろう。

最後に，英語教育について「他の国の現状をもっと知り，追いつくべく努力の必要がある」，「先進国でありながらまだまだ英語教育については初歩の段階であると感じる」といった厳しい意見もあった。急速にグローバル化が進展する中で，日本が出遅れたというイメージを持っているようである。このようなイメージを払拭していくためにも，小学校英語教育を学校・地域が一丸となって整備・体系化していくことが肝要である。

5　課題と展望

今回のセミナーを通して，小学校英語教育を推進していくための保護者に対する支援において，いくつかの課題が見つかった。

まず，今回の参加人数である。今回のセミナーは地域の小学校の全児童を対象に5400枚の案内をし，新聞やホームページに対してもセミナー案内を掲載してもらった。しかしながら，今回の参加者は80名に留まっていた。日程や会場の問題からこのように少人数となってしまったのかもしれない。今後は各学校区単位でこのようなイベントを持つことが望まれる。特に，小学校教師との連携を図り，学校の英語活動状況や地域の事情に合わせた形での開催をしていくことが求められるであろう。

この問題については，「親子一緒で」ということも参加者が少なかった原因ではないかと推測する。保護者からの感想にもあったように「子どもだけ」での参加方式も必要としているからである。ただし，子どもの立場では，保護者と共に参加することで勉強・学習することを楽しいと感じていることから，親子での参加がやはり重要であると感じている。

また，参加者の英語のレベルにおける違いが問題である。この問題については，企画段階から検討してきた。今回については，一般公募という形で実施したため，グループ編成時に学年を均等に振り分けるように配慮したが，実際は子どもが在籍している小学校の英語活動の実施状況や英会話教室などの通学経験，海外在住経験なども考慮した上で行うべきであろう。ただし，このような問題を回避するためにも，より小規模に地域を限定して実施することで，事情を把握しやすく，参加者の特性により特化した形での支援が可能になるであろう。また，扱われる歌やダンスについても，幅広いレベルのものを用意し，参加した子どもたちがどれか一つでも楽しめるよう配慮したが，やはり全てを楽しめなかったことを残念に思う参加者もいるため，この点についても，地域の小学校教師と密に連携を取りながら，進めることが必要である。

しかし，この問題を解決する一つの手立てとしては，保護者からの要望にもあったように，参加者に対する支援体制をきちんと整えておくことである。学習歴や外国人との接触経験等の差異から，すべての参加者が積極的に活動参加したり関わったりしていけるわけではない。そのため，学生による支援を参加者に対して行っていく

ことが大切である。しかし，このような支援が逆に日本人に依存する参加者を出さないよう，人数等の調整については，慎重に検討していかなればならない。

6 終わりに

今回の親子英会話セミナーの実践は，小学校英語活動支援の対象を保護者を中心とした点で，前例のない取り組みであると自負している。成果としては，保護者の小学校英語教育に対する意識や関心が高まり，また日頃触れることの少ない英語に触れることで新鮮に思い，子どもと一緒に楽しんでもらえた。

また，現在広く実践されている英語活動が保護者には受け入れられているのではないかと感じる。今回のアンケート調査の結果から，保護者が子どもたちの英語学習に求めているものは,「英語力」ではなく,「コミュニケーションに対する関心・意欲」であり，さらには,「ゲームや歌を通して，楽しみながら学習すること」,「外国人とふれあい，国際交流をすること」であり，現在の小学校の実践内容においては，多少の差異はあるものの，多くの小学校が取り組んでいる，または取り組もうとしている内容と一致している。今後，小学校教師には，自身の実践に対してさらに自信を持ち，英語活動に取り組んでもらいたい。

しかしながら，今回のセミナーで扱った歌やゲームが参加者の方には難しすぎたことや，外国人留学生とのふれ合いの機会が少なかったこと，英語の習熟度別ではなかった点等が課題として残っている。また，各セミナーの時間が短時間であったために，個々の内容が限定されていた点も今後何らかの方法を検討する必要がある。

今後は，小学校英語教育を推進するために，学校現場だけではなく，総合的な支援としてこういった活動を継続的に実践していくことが広く展開されなければならないであろう。

参考文献

井上洋介，佐藤大介：『小学校英語教育における保護者支援に関する提案』，児童英語研究学会研究紀要 (2007) 2，12-20

松畑熙一：『英語教育人間学の展開　―英語教育と国際理解教育の接点を求めて―』，開隆堂 (2002)

文部科学省：『小学校学習指導要領』，(1998)

文部科学省：『小学校における英語教育について（外国語専門部会における審議の状況）』，(2006)

＊1　児童英語研究学会 (ASELAC) は財団法人福武教育文化振興財団から児童英語に関する研究委託を受けている。本セミナーはその事業の一環として実施したものである。